

1-03 港湾・物流の確保

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること ●道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること
------------	---

1-03-01 留 萌 港

5 年後の目指す姿

- 交通基盤の整備とともに、留萌港の経済圏である留萌・上川・北空知地域を中心とした物流が活発になっています。
- 港湾荷役等をはじめとする港湾関連サービスが安定的に提供されています。

現 状 と 課 題

- 企業の札幌圏集中や不安定な景気の影響により、留萌港の取扱貨物量は伸び悩んでおり、新たな取扱貨物の可能性について調査・研究が必要となっています。
- 留萌港は港湾運送事業法の適用港となっているが、同法非適用港は港湾荷役料金を自由に設定できるため、それら港湾と比較すると条件面で不利な状況があります。

前 期 の 方 向 性

- 留萌港の経済圏域との新たな連携を模索し、本来港が持つ物流、産業に関連する機能強化・効率化を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
留萌港取扱貨物量 (万t)	127.5	137.0	137.0	137.0	137.0	137.0
港湾運送事業者数 (法人)	2	2	2	2	2	2

1-03-02 貿 易

5 年後の目指す姿

- 石炭の輸入や道産材の輸出など、留萌港での外貿貨物が安定的に取り扱われています。
- 地場産品の海外販路開拓・拡大に向けたビジネス機会が創出されています。

現 状 と 課 題

- 留萌港における主要な取扱貨物である石炭や木材については、北海道内の電力需要の動向や道産木材の輸出先である中国や韓国における需要が不透明であることから、今後の見通しが立てづらい状況です。
- 地場産品の輸出については、商品のロット数や輸出許可が課題となっています。

前 期 の 方 向 性

- 社会情勢を注視しつつ、国や北海道等と連携し外貿貨物に関する情報収集や研究を進めていきます。
- サハリン経済交流促進協議会に参画し、北北海道各市連携と幅広い地域との協力関係を構築しながら、地場産品の販路拡大に有望である海外からのバイヤー関係者等を招へいし、地元事業者との関係を構築します。

1-03 港湾・物流の確保

数 値 目 標		※現状：H27					
指 標 項 目		現状	H29	H30	H31	H32	H33
留萌港取扱貨物量	(万t)	127.5	137.0	137.0	137.0	137.0	137.0
輸出特産品数	(品)	0	1以上	1以上	1以上	1以上	1以上